

中国語の環

第118号

『中国語の環』編集室編 2021年9月

- 目次
- 1 **巻頭エッセイ** 「暴走族」から“低头族”へ
 - 2 **中国語でどういう？** 君はまだ言わないで！
 - 3 **例文で説き(=解き)ほぐす中国語文法**
Lesson 2 “武松打死了老虎。”
 - 4 **中国食文化** 一方水土養一方人：所変われば品変わる
 - 5 **紛らわしい文法表現** “V不得”と“V不了”(2)
 - 7 **看图学谚语** 絵で見ることわざ(8)
 - 9 **中国語と文化** 中国語で歌う『般若心経』
 - 10 **語彙学習の話** 中国語教育の新標準について
 - 11 **読者の広場** 春と蛇

ひとことエッセイ

『論語』の冒頭に出てくる“有朋自远方来”をどう訓(よ)むか。

「朋アリ遠方ヨリ来ル」。多くの人はこう訓んでいる。いや、「朋ノ遠方ヨリ来ルアリ」と訓むべきだと主張する人もいる。中には、「有朋(とも)遠方ヨリ来ル」だと異を唱える人もいる。大きく分けると、この3つの訓み方がある。

なぜこのように分かれるのだろうか。機械翻訳法ともいうべき漢文訓読のルールでは日本語に移すのが難しいからである。“有朋自远方来”における“朋”の字は“有”の目的語であると同時に“自远方来”の主語をも兼ねている。今日の中国語文法でいうところの「兼語式」である。この文型は日本語にはない。強いて訓むなら、「朋アリ、ソノ朋遠方ヨリ来ル」だろうか。

なぜこんなややこしい訓み方にこだわるのか。“有”で導かれる“朋”は、不意に訪ねてくる、予期せぬ来訪者でなければならないからである。

(上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

「暴走族」から“低头族”へ

李 錚強（共立女子大学）

“～族”を語素にもつ中国語は、もともと“汉族”“家族”のような血縁・血族関係のある人々、または同じ文化を共有し生活様式を一にする人間集団に限ってしか使われていなかった。しかし、およそ40年前に“暴走族”bào zǒu zúという異種類の新語が日本語からの翻訳書に初めて登場した。インパクトのある語なので、これを皮切りとして中国語にも“～族”という流行語が、20世紀の末頃から次々と誕生している。中でも“打工族”dǎ gōng zú（アルバイト），“追星族”zhuī xīng zú（芸能人などの追っかけ）などは次第に定着し、2002年に改訂された《現代汉语词典》増補本に新語として追加された。この「共通の性質をもつ仲間」としての“～族”派生語自体は舶来品ではないが、接尾語“～族”の用い方は間違いなく日本語由来の表現だと思う。

21世紀に入ってからもこの“～族”の造語力は衰えず、ソーシャルメディア上で次から次へと生成されている。中には寿命の短い語もあるが、特に若者の生活スタイルを表す流行語が多く見られる。ここで2012年に改訂された《現代汉语词典》第6版に収録された“啃老族”kěn lǎo zú（ニート）や“月光族”yuè guāng zú（毎月給料をすべて使い切ってしまう人々）を拾ってみよう。

“啃老族”の“啃”は「かじる」，“老”は「親」を指す。“啃老族”は親のすねをかじる都市部の若者のニックネームである。彼らのほとんどは一人っ子の家庭で大切に育てられ、自立生活をするのが難しいだけでなく、物質社会になじみ、仕事を選び好みし、職に就かず親で暮らし続け、現在も社会問題となっている。

一方、“月光族”は、もともと“月光”なので、夜間労働者を指していたが、新しい意味では、“月”は“月薪”（月給），“光”は「何も残らない」から、月末までに給料を使い果たしてしまう若者を指すようになった。中にはかなりの収入がありながら、遊びのために使い果たすOLも少なからず含まれており、彼女たちは“月光公主”yuè guāng gōng zhǔと揶揄される。もらった月給をあるだけショッピング・グルメ・エステに注ぎ込む“月光公主”は、この消費社会の優等生と言えるかもしれないが、中国の伝統的な美德とされてきた儉約観念とは相容れない。

最後に“～族”系列語の最新の流行語と思われる“低头族”dī tóu zúを取り上げよう。この語の3文字から見るかぎり簡単そうだが、なかなか想像がつかないかもしれない。ズバリ「スマホ族」である。“头”は「頭」の簡体字で、“低头”は「顔をうつむける」ことである。即ち、うつむいてスマートフォンをじっと見つめている身体動作を表現する語である。この“低头族”はすでに8億人にも膨らんでおり、21世紀の中国で最も成長が早い“族群”（エスニック・グループ）と言えようか。近い将来《現代汉语词典》にも収録されるかどうかを引き続き見守っていきたい。

君はまだ言わないで！

張 勤（中京大学）

“你还别说”はよく耳にする言い方だが、「君はまだ言わないで」と直訳したら文全体の意味が掴めなくなってしまう。単純そうに見えるが、実際は使い方が難しく複雑な意味とニュアンスを持つ表現だ。次はその一例である。

(1)A 怎么样？我的手艺还可以吧？（どう？僕の腕はいけるだろう？）

B 你还别说，真有点儿那个意思啊！（まじでそれらしいな。）

少し若者のことば風に訳してみたが、「本^{じつ}当^だ」や「そうだね」などに近い意味なので、字面の意味と実際の使い方がかけ離れている。

“你还别说”は、“你别说”“还别说”“别说”などとも言える。

(2)A 这家咖啡馆的环境怎么样？（このカフェの雰囲気，どう？）

B 你还别说，真是读论文的好地方。（本^{じつ}当^だ，論文読みによい所だね。）

(3)（A Bは前に会の雰囲気について話し合ったことがある。会場に入って）

A 你别说，还真挺热闹的。（本^{じつ}当^だ，なかなか盛り上がっているね。）

B 大家都等着今天呢。（みんな今日の日を待っていたからね。）

(4)A 你看，开始下雨了。（ほら，雨降ってきた。）

B 你还别说，天气预报还挺准的。（天気予報は意外と当たるね。）

用例を見てみると，“你还别说”には，(1)~(3)のように，相手の表現意向やそれまでの議論の流れを汲み取って，それを「追認」する意味と，(4)のように，Bが気づいたこと，分かったことなど自分の「発見」を，Aと分ち合う意味がある。そういう意味に伴って，話者の賛同・感心・意外・驚きといった気持ちも示されるので，“你还别说”はとても奥ゆかしい表現である。もし(1)(2)が“是啊”“可不是”，(4)が“看来”“我说”などに置き換わっているとしたらその醍醐味が皆無となろう。(3)と来たら，そもそも置き換えの表現を見つけ出すのも難しい。また「追認」の意味では“你真还别说”“你别说，还真～”のように言うと相手に合わせていく意味がより強くなる。

下の(5)の文章に用いられる“你别说”は「発見」の意味だが，置き換える他の表現がなかなか見当たらない。叙述の途中に作者がいきなり発見したことを“你”と名指して読者に直接語りかけてくるので，どきっとさえしてしまう表現である。語り口としては「あのね」のようなものがあるが，意外性を感じる気持ちを伴う「発見」の意味なので，とりあえず「案外」といったところだろう。

(5)在她身旁的小桌子上，有许多贱卖货。你别说，这些琳琅满目的小玩意还怪吸引人的。（彼女の傍らの小さな机に安売りの品が多く置いてあった。珍しい小さな骨董がずらりと並んでおり，案外魅力的だった。）（『読者（総79期）』より）“你还别说”は口頭の表現で，説明文や論説文など硬い文章には使わない。

Lesson 2 “武松打死了老虎。”

古川 裕（大阪大学）

この誌上講座では、ちょっと気になる例文を取り上げて、中国語の仕組みを説き（＝解き）ほぐしてゆきます。

前回取り上げた例文は、『水滸伝』で有名な「武松（ぶ・しょう）の虎退治」を表現した中国語“武松用手打死了一只老虎。”でした。引き続き今回はこの文から枝葉を取り去った“武松打死了老虎。”を例文として取り上げます。

“武松打死了老虎。”は一見したところでは〔主語S“武松”＋動詞V“打死”＋目的語O“老虎”〕という文型で、まったく単純きわまりない文に見えますが、実は、この例文の中に中国語らしい仕組みが隠れています。

では、この一見シンプルな例文に隠れている仕組みとは？それは、述語“打死(了)”において、動詞V“打”は主語「武松」が先に行なった動作行為「なぐる」を表しているのに対し、補語Result“死(了)”はその後に目的語「トラ」の身の上に生じた結果状態「死んだ」を描いていることです。したがって、今回の例文“武松打死了老虎。”を日本語に訳すならば、「武松はトラをなぐって死なせた。」が対応する…というところまで前回お話ししました。例文の内部構造を図示すると、下のようになります。

例文	武松	打	死了	老虎
文の成分	主語	述	語	目的語
意味役割	動作主	原因行為	結果状態	受動者
意味関係	↩		↪	

動詞Vと結果補語Rから成る動補構造VRは、表向きは一体化しているように見えながら、実はVとRそれぞれが分業しており、動詞Vは文内の左側にある主語（動作主）と関係を持ち、結果補語Rは文内の右側にある目的語（動作の受け手）と関係を持っています。文の中でそれぞれ秘かに関係のある相手がいるわけで、VRは仲良く一体化しているように見えていても、実のところVとRはお互いにそっぽを向いていて、両者の間には溝があり、その間にはすきま風が吹いているのです。そのすき間に入り込んで来るのが、ほかならぬ“不”（bu）と“得”（de）という第三者。こうしてVRから“V得R”（Vした結果、Rになり得る）と“V不R”（Vしても結果としてRにならない）という可能補語の形式が生じることになった…というのが、中国語文法の補語たちをめぐる真相なのでした。

ここまで例文の“打死”を使って動詞Vと結果補語Rの特性について説きほぐしてきましたが、動詞Vと方向補語Directionから成るVD構造でも同じことが言えます。たとえば、“王老师从书包里拿出一本书来了。”（王先生はカバンから本を1冊取り出した。）というような文では、動詞V“拿”が主語“王老师”（王先生）が先に

行う動作「手にとる」を表し、方向補語D“出来”がその結果として目的語“一本书”（1冊の本）が移動する方向「カバンから出てくる」を描いています。まさか王先生がカバンから出てくるはずはありませんよね。

また、VRと同じように、VDも“不”（bu）と“得”（de）という第三者を間に割りこませて、可能補語へと繋がってゆきます。

VR → V得R	V不R	VD → V得D	V不D
打死 打得死	打不死	进来 进得来	进不来
看见 看得见	看不见	走进来 走得进来	走不进来
听懂 听得懂	听不懂	拿出来 拿得出来	拿不出来

今後はこんな角度からも実際の中国語表現を見てみてください。そうすると、現実には動詞Vと補語（R，D）が隠し持っている意味的な関係性には様々なタイプがあって、中国語文法のオモシロさに改めて気がつくことでしょう。

中国食文化

一方水土養一方人：所変われば品変わる

穀物（米）をそのまま調理して食べる粒食文化と穀物（小麦）の粉を原料とした食物を主食とする粉食文化、この2つの文化が中国では南北に分かれている。“南粒北粉”とか“南稻北麦”などと4字で表現される。この違いは、稲が育たない北方では小麦を育て、小麦は粒のままでは人間は消化できないため、粉にして“面”や“餅”などとして食べる点にある。日本語の「餅」は“糯米”（もち米）で作り、日中の「餅」と“餅”は原料が違う。

穀物の生育の差異ほどの科学的根拠はないが、味付けにも南北の言い方が見られ、“南甜北咸”と言われる。糖や蜜の甘さと塩の辛さは味の代表であり、日本語にも「甘（あま）辛（から）人生」という言い方がある。他にも“酸”は酢のすっぱさ、“辣”は生姜やニンニク・山椒などのぴりっとした辛さ、“苦”は（中国の辞書の記述では）胆汁あるいは黄連のにがさがある。日本の辞書ではビールやサンマの内臓（はらわた）の味との記述がみられる。

この5つの味から“东辣西酸”が作られ、四方位が揃う。

山東省の料理“鲁菜”は“葱蒜”を使ったものがあり有名で、山西省の料理“晋菜”には“江苏镇江香醋”とともに天下に知れた“山西老陈醋”が欠かせない。料理であるから“苦”が排除された4つの味と方位が組合わさった言い方と考えられる。また“苦”を入れた“酸甜苦辣”という成語もある。4つの味を意味すると同時に、人生の喜びや悲しみ、幸福や不幸を譬える。比喩義があり、古典に用例があるので成語である。

主食や嗜好を含めた風土は地方によって異なるのである。標題は“養”を省いて“一方水土一方人”としても使われている。

（大塚 秀明）

“V不得”と“V不了”(2)

魯 曉琨 (文京学院大学)

前回、Vが実現できないことを表す“V不得”の文法的な意味を明らかにしました。「V不得」は動作主体の生理的または心理的な障害、さらに特別な障害により“V”が実現できないことを表す」という結論に至りました。今回は“V不得”と“V不了”の弁別を行います。

前回取り上げた“V不得”の用例はどれも“V不了”に変換可能です。なぜでしょうか。それは“V不了”の意味範囲が広く、その中に“V不得”が表している意味も含まれているからです。“V不了”は能力または外的な条件が備わっていないことによりVが実現できないことを表します。能力条件に様々な能力が含まれているため、その中に“V不得”が表す動作主の生理的または心理的な能力が含まれており、また、外的な条件に“V不得”が表す特別な条件も含まれています。動作主の生理的または心理的な障害が発生したことは、当然動作主の生理的または心理的能力が備わってなく、特別な障害が発生したことは当然その外的な条件が備わっていないのです。“V不得”と“V不了”の意味関係は図1で示すとおりです。



図1

二者の共通意味範囲内においては、どちらを用いるかは話し手の自由選択が可能です。ただ、視点が異なります。データベースからの用例を見てみましょう。

(1)我把自己的一件衣服给了他,但他太胖了,穿不了。

(私は服を彼にあげたが、彼は大変太っているから着られない。)

(2)这件衣服你穿不得了,小玲一定可以穿。

(この服はあなたは着られなくなったが、小玲はきっと着られるだろう。)

同じく服のサイズが小さいから着られない場面で、(1)では着る条件が備わっていないという視点から“穿不了”が、(2)では生理的な障害があるという視点から“穿不得”が用いられました。

ここまでの話では、“V不得”が“V不了”に代替可能であることを説明しましたが、それなら“V不得”が存在している意味がどこにあるのかという疑問を抱かせたのだと思います。この疑問に答えるため、下記の“动不了”の用例から考えてみましょう。

(3)改革需要大家支持,现在的情况是上面不动,下面也动不了(×动不得)。

(改革には皆さんの支持が必要なのであるが、現在の状況は上が行動しないため、下も行動できない。)

(4)年轻的时候不想动，现在想动却已经动不了（×动不得）。

（若い時は運動したくなかったが、今は運動したくてももうできなくなった。）

(5)如果不是儿女们坚持让我们退休，我们愿意一直干到动不了（×动不得）。

（もし子供たちに定年退職するよう言われたのでなければ、私たちは働けなくなるまで働きたかったのである。）

(6)她要起身，却手足无力的躺在床上动不了（○动不得）。

（彼女は起きようとしたが、手足に力が入らないためベッドに寝ついたらままだ動けない。）

“動”は多義性を持っています。(3)では行動を指し、(4)では運動を指し、(5)では仕事をやる体力を指しています。この3例の“动不了”は“动不得”に変換できません。(6)では“動”は身体の最低限の動く能力を指すため、この“动不了”のみ“动不得”に変換できます。“动不了”の意味範囲が広く、“动不得”と同様な意味であるかは、文脈で判断しなければなりません。しかし、(6)の“动不了”を“动不得”に変えれば、“動”は身体の最低限の動く能力に限定され、生理的な障害により動けないことを際立たせたことができます。実は(6)のような場面では“动不得”の用例が多いです。

“V不得”は“V不了”との共通部分を際立たせる役割があるため、生理的な障害、特に心理的な障害により“V”が実現できないことを表す場合、やはり“V不得”が優先的に選択されます。例えば心理的な障害により見ることに耐えられない場合、“看不了”の用例はないわけではないが、“看不得”の方が圧倒的に多いです。

また、生理的な障害または心理的な障害により耐えられないことを表す“受不了”と“受不得”には程度の違いがあります。“受不得”の後に“委屈、批评、刺激、训斥、伤害、冷遇、挫折、约束、考验、侮辱、牺牲、管束、饥寒、累、苦、冻”等の人に衝撃を与える目的語を伴います。“受不了”は(7)(8)のような程度が低い場合でも用いられるが、“受不得”は用いられません。

(7)我在外国学习还可以，长期呆在那儿受不了。

（私は外国で勉強することはできるが、長期的な生活には耐えられない。）

(8)调整物价，我们想得通，但无限制地涨价，工人就受不了。

（物価の調整は理解できるが、無制限な値上げには労働者は耐えられない。）

“V不得”の存在価値をまとめると、“V不得”は“V不了”の特定の意味範囲を際立たせ、またその意味を強めさせる働きがあります。“V不得”と“V不了”における共存範囲での役割分担は図2で示されています。



図2

“V不得”が“V不了”に代替されない理由もお分かりいただけたでしょうか。

絵で見ることわざ(8)



麻雀虽小，五脏俱全
 màiquè suī xiǎo, wúzàng jù quán
 雀は体は小さいが、五つの臓（ぞう）はすべて備わっている；規模は小さいが何もかもそろっていることのたとえ。“五脏”は“肝胆”（gāndǎn）とも。



卖瓜的说瓜甜
 mài guā de shuō guā tián
 瓜売りは自分の瓜は甘いと言う；自分の物を誇る。手前みそを並べる。“卖瓜的谁肯说瓜苦”（瓜が苦いと言う瓜売りはいない）とも。



忙中多有错
 máng zhōng duō yǒu cuò
 あまり急ぐとかえって失敗しやすい；急（せ）いては事を仕損ずる。“忙中出错”“忙中有失”“忙中有乱，乱中生错”などとも。

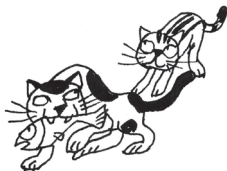
絵 張 恢
 文 『中国語の環』編集室



蚂蚁不入无缝砖
 mǎyǐ bù rù wú fèng zhuān
 煉瓦（れんが）に隙間がなければアリは入り込まない；自身に弱みや隙がなければ相手に付け込まれることはないことのたとえ。



慢工出巧匠
 màn gōng chū qiǎojiàng
 じっくり念入りに仕事をする人の中から名人上手が生まれる。“慢工出细活”（手間ひまかけてこそ精巧な仕事ができる）とも。



猫儿都吃腥
 māor dōu chī xīng
 猫はみな腥（なまぐさ）が好きである；（欲張りや悪人の）習性は改めがたいものである。“没有不吃腥的猫”“猫儿吃腥，狗吃屎”などとも。



没有不散的筵席

méiyǒu bù sǎn de yánxí

果てない宴会はない；どんな楽しい集いもいつかは終わるものである。会うは別れの始め。“没个不散的筵席”“没有千年不散的筵席”などとも。



没有规矩不成方圆

méiyǒu guījǔ bù chéng fāngyuán

コンパスと定規がなければ、四角も円も描けない；一定の標準と規則がなければ何事も成就しない。“不以规矩，不能成方圆”（孟子・离娄上）から。



年纪不饶人

niánjì bù ráo rén

年には勝てない；気持ちはまだ若いつもりでも、肉体的な衰えは明らかである。年は争えない。“年纪”は“年齢”“年岁”“年数”などとも。



没有不透风的墙

méiyǒu bù tòu fēng de qiáng

風を通さぬ垣根はない；秘密は必ずばれるものだ。悪事は必ず露見する。“没有不透风的篱笆”とも。“篱笆”（líba）は「まがき」。



男不跟女斗

nán bù gēn nǚ dòu

（弱い者いじめをして笑われないために）男子は女子と争わない。“～，老不跟少shào斗”“好汉不打坐婆婆”などとも。



宁为鸡口，无为牛后

nìng wéi jī kǒu, wú wéi niú hòu

鶏口となるも牛後となるなかれ；大きな集団の中で尻についているよりも、小さい集団であってもその頭でいるほうがよい。『史記』蘇秦伝ほかに見える諺。

中国語で歌う『般若心経』

加藤 徹 (明治大学)

日本の仏教徒が読誦する「お経」は漢訳仏典である。当たり前だが、中国人は中国語の発音で音読する。

今から30年余り前、北京大学に留学中、ミャンマーから来た留学生が、母国で使っていた中国語教材を見せてくれたことがある。その中に、

观自在菩萨，行深般若波罗蜜多时，……

guān zì zài pú sà, xíng shēn bō rě bō luó mì duō shí, ……

云々と《般若心経》の全文が簡体字とピンインで収録されていた。ミャンマーは南伝仏教の国だが、北伝仏教のお経も教材に使うとは。おおらかさに感心した。

中国は社会主義国だが、町なかで「お経」を耳にする頻度は、日本より多い。

私が留学していた当時、北京のテレビや街のBGMでは、トシトシドレード、トシトシソソファ、というメロディーに乗せて、

南无阿弥陀佛，南无阿弥陀佛，南无阿弥陀佛，南无阿弥陀佛，……

と連呼する歌が流れていた。これは1986年のTVドラマの時代劇《济公》の主題歌《鞋儿破帽儿破》で、名曲の誉れが高い人気曲だ。中華圏の人気歌手、フェイ・ウォン（王菲）やアニタ・ムイ（梅艷芳。故人）も、現代の楽曲に乗せて《般若心経》を歌った。西洋人が『聖書』の文章を歌詞として歌う感覚と似ている。

中国仏教はマイルドだ。「三武一宗の法難」などの歴史の結果、中国仏教の諸宗派は融合し「念仏禅」にまとまった。中国語では「お坊さま」を“禪師” chánshī と呼ぶ。また、古典小説《西游记》の孫悟空というキャラクターが典型例だが、仏教は漢民族の民間信仰では道教とも融合し、ますますまろやかになった。

ひるがえって日本仏教は、今も宗派どうしの競争が熱い。日蓮宗や浄土真宗のお坊さんを「禪師」と呼んだら、叱られるだろう。そんな日本では「お経」も取り扱い注意だ。日本の中国語教科書で、ピンインつきの《般若心経》や《法華経》を載せたら、抗議がくるかもしれない。現に、義務教育の国語の教科書でも、宮沢賢治が法華経信者だったことは伏せている。宮沢の「雨ニモマケズ」は『法華経』常不軽菩薩品へのオマージュであり、オリジナルの原文では「サウイフモノニ/ワタシハナリタイ」のあとに「南妙法蓮華経」云々の祈りの言葉が続く。もちろん、文科省の検定教科書では、本来の結びの祈りはカットしている。

そんな日本でも「寺離れ」や「墓じまい」をする日本人が急増し、「お経」への宗派がらみの縛りも緩和された。近年、日本人僧侶が中国語の発音で《般若心経》を歌うYouTube動画が、国内外で話題となった（「般若心経（中文版）[春節 mix.] × 燕趙園 / 薬師寺寛邦 キッサコ」<https://youtu.be/BkLfOEyEW6U>）。

将来、日本の中国語教科書にも「お経」が採られる日が、来るかもしれない。

中国語教育の新標準について

沈 国威 (関西大学)

2021年3月24日、中国の教育部と国家語言文字工作委員会が共同で『国際中文教育中文水平等級標準』(以下『等級標準』)なるものを発布し、7月1日より実施するとアナウンスした。『等級標準』はその名の通り、グローバルに展開されている中国語教育の範囲とその到達度を測定する基準を「規範」(国家標準)という形で規定したものである。

『等級標準』は、「音節表：1,110音節」「漢字表：3,000字」「詞彙表：11,092語」と附録A(規範性)「語法等級大綱：572項目」という4つの部分からなっているが、「詞彙表」が重要な位置を占めている。この「詞彙表」は、2010年に発布された『漢語国際教育用音節漢字詞彙等級劃分』(以下『等級劃分』)を全面的に踏襲している(70語前後の入れ替えがある)。ここでは、語彙学習の面から『等級標準』の語彙の部分のみを概観するとしよう。

「詞彙表」は初等、中等、高等の三等に分け、等の中はさらに3つの級に分けられる(高等では細分しないという)。この「三等九級」の枠組みは、新時代の要請に応える真新しいものであると謳っている。内訳は下記の通りである。

初等 1-3 級			中等 4-6 級			高等 7-9 級	合計
500	772	973	1,000	1,071	1,140	5,636	11,092

収録語彙数は2001年のHSK大綱の8,822語より2,270語も増加した。そのうち介詞、助詞等の機能語を除く実質語は、名詞=4,509語；動詞=3,493語；形容詞=1,410語；副詞=443語になっている。品詞を跨がる語もあるので、総語彙数は9,855語にのぼる。

『等級劃分』と『等級標準』の最も大きな違いは、各等級に音節、漢字、語彙、文法項目の数値目標が示されているほか、それぞれの到達基準にコミュニケーション能力とタスク完遂の能力：聞く、話す、読む、書く——中等以上では、さらに「訳す」を加えた5技能の側面から規定が設けられていることである。

中国語母語話者の平均的漢字使用量は、2,500字前後であることや、4年制外国語大学のシラバスの習得目標が4,000語になっていることなどを考え合わせれば、『等級標準』に規定されている漢字、語彙、文法項目の数量は、とうてい教室の中だけでは消化しきれない量と言わざるを得ない。また学習の方式と目的も多様化する中、拘束性の強い規範の妥当性についても議論する余地があるだろう。『等級標準』の頒布者は、言語、地域によっては標準の内容に5%ほど独自の調整を与えることもあり得るとしている。このような母語別の学習者への配慮は現場の努力によってのみ実現が可能である。いずれにしても『等級標準』は中国語教育のシラバス・デザイン、教材作成、HSKの実施に大きな影響を与えるものと予想される。

春と蛇

上田 真司

私は、自分ではそこそこ中国語ができと思っている。大学では中国語学を専攻していたし、関連する資格も取得した。中国の方々と中国語で話すと、皆「中国語が上手ですね」と褒めてくれるので、元来調子に乗りやすい私は、益々調子に乗り中国語を使っていた。

近所の市民センターの週末ボランティアで、市内の小学校に通う外国籍の子供たちに勉強を教えることになった。児童の大半は、中国籍の子であるため、自然と日本語と中国語を交えながらの授業となった。お互いに慣れてくると、子供たちが私の中国語の発音がおかしいと言い出した。彼らの指摘を総合すると、私の発音は特に「子音+uen」（例：春）と「she」（例：蛇）の音に問題があるらしい。

私が中国語で“春天”や“蛇”と言おうものならば、子供たちは指をさして笑い袋のようにケタケタ笑うようになった。

私がむきになって再度、「チュンティエン！」（“春天”のつもり）、「シャア！」（“蛇”のつもり）と言うと、彼らも「チュンティエン！」、「シャア！」と私の中国語をまねてからかう。何て憎らしい！

今更ながら、社交辞令で私を褒めてくれた大人の中国の人たちも、内心はけったいな発音だなと思っていたのだろう。英文学の斎藤兆史先生も「ネイティブから上手ですねと褒められているくらいでは、語学のレベルはまだまだ」という趣旨のことを書かれていたが、私もまだまだであった。ちょっと恥ずかしくなった。だいたい、“春”や“蛇”もろくに発音できないようでは、中国語で童話の読み聞かせもできないではないか（今のところ、読み聞かせる相手はいないが）。「啓蟄」の説明をするのにも困る。

この時世に子供たちに笑いを提供できたのは良いのかもしれないが、あまり高くない鼻っ柱を折られ少し落胆する私に、クラスで最年少の女の子メイちゃんが優しく言った。

「先生、大丈夫だよ。もっと練習すれば、きっとできるようになるよ。」

これは常々、私が子供たちに言っていたことである。

サッカーのカズ（三浦知良選手）は、50歳を過ぎても朝目覚めると、もっとサッカーが上手になりたいと考えるという。

そうだ。もっと、練習しよう。

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、試験に関する事など、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便とも可）。採用された方には、中国語関連書籍を進呈します。